

利尻島の木材利用に向けて

宗谷森林管理署

一 取り組み

北海道北部に位置し、観光地として有名な「利尻島」は、面積の約8割が森林となっています。そのうち国有林は85%を占めており、人工林は林齢50年生前後のトドマツ、アカエゾマツが多く、利用適期を迎えています。

しかし、島内には林業事業体、木材加工施設が存在しておらず、島外へ木材を運搬するには船舶を利用する必要があります。島内の人工林の整備を進めるためには多くの課題があります。

また、民有林も間伐適期を迎える人工林が多くあることから、利尻島の森林を適切に整備し、間伐材の有効利用に向け、国有林と民有林が一体となつて地域の課題解決に向けた取組を進めています。

二 課題解決に向けた取組

利尻島における森林整備や木材利用の推進に当たっては、これまで宗谷総合振興局、地元自治体、宗谷森林管理署等関係者による意見交換会等を開催し、検討を行っています。

今年度は現地状況を把握し、より具体的な検討を進めるため、十月に宗谷総合振興局林務課・森林室、林業事業体、利尻町、利尻富士町及び宗谷森林管理署による現地検討会を開催しました。



現地での状況確認（国有林）

現地検討会では、国有林と民有林それぞれ2箇所

の間伐対象林分において、生育状況、木材の形質、伐採・搬出方法等の確認を行いました。また、木材の船舶輸送で利用が想定される沓形（くつがた）港において港湾施設の利用状況や木材のストック箇所の確認を行いました。

国有林・民有林ともに伐採・搬出での大きな問題は見あたりませんが、林業機械の船舶輸送の方法や造材コスト、港における木材の集積場所は港湾工事や夏の観光シーズンにおいては調整が必要であるなど船舶輸送に関する課題の多いことが分かりました。

三 今後の取組

現地確認後、利尻富士町役場で意見交換を行い、多くの課題がある中、森林施策の実施には多くのコストが掛かることが予想されることから、まずは間伐の実施を想定した、コスト計算（試算）を行うこととしました。

また、国有林・民有林の間伐対象箇所の資源量の把握を行い、民国共同施策によるコスト縮減方法を検討する必要がありますほか、将来的には利尻島の木材を島内で利用できるようにな仕組みづくりも必要であると確認しました。



現地確認後の意見交換の様子

四 おわりに

利尻島の木材利用に当たっては多くの課題がありますが、利尻島の森林を適切に整備し、木材を有効に利用するため、今後も宗谷総合振興局や地元自治体等の関係者と連携し、地域の課題解決に向けた取組を進めてまいります。